

# 家 庭

## 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

### (1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

各教科等において、「物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程」を重視した深い学びの実現が求められている。その際、教科等の特質に応じて実施し、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにすることが重要である。

共通教科「家庭」においては、実践的・体験的な学習活動を通し、よりよい社会の構築に向け、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図ることが大切である。

また、探究的な学習を推進するには、単元など内容や時間のまとまりを見通し、その中で育む資質・能力の育成に向け、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る必要がある。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解させるとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることが重要である。

#### 【生活の営みに係る見方・考え方】

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

### (2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

きめ細かな学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指すためには、学習評価において、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに、学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施する必要がある。

また、指導と評価の一体化を図るためには、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。すなわち、平成30年に改訂された高等学校学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

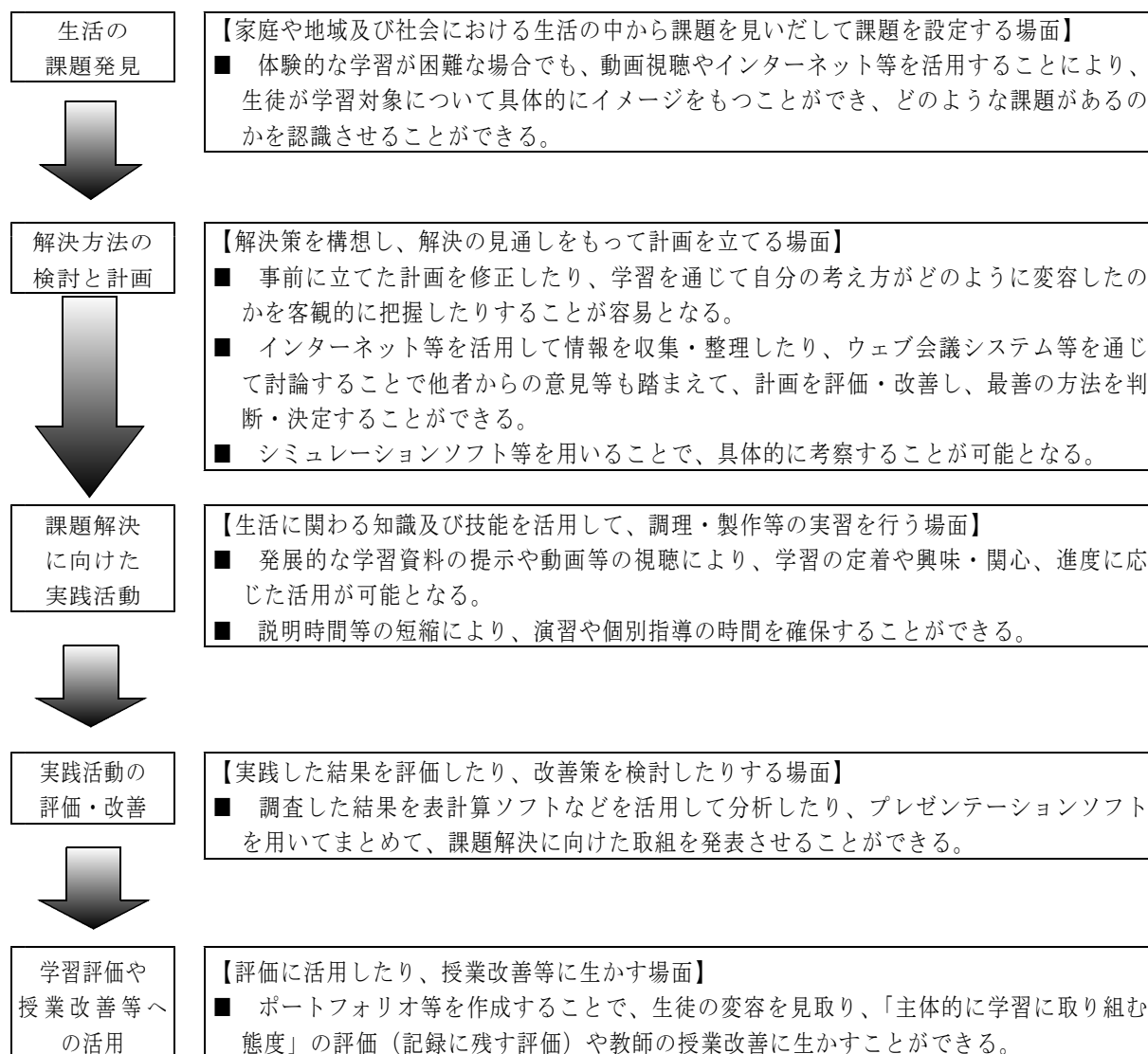
学習評価を進めるに当たっては、観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価である「記録に残す評価」だけでなく、学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う日常の学習改善につなげる評価である「指導に生かす評価」が重要となる。

「指導に生かす評価」を実施するに当たっては、ICT機器をはじめとしたツールを効果的に活用することで、生徒の学習状況を即座に把握し、支援が必要な生徒の助言を行

うことができるだけでなく、教師の授業改善にも繋げることができる。

なお、評価に当たっては、題材や内容のまとまりごとに三つの観点をバランスよく見取ることができよう工夫することが必要である。

【一連の学習過程の中における効果的なICT機器の活用方法】



## 2 指導と評価の計画例

### (1) 家庭総合「衣生活の科学と文化」の計画例

#### ア 単元の目標

- (ア) 被服材料について、繊維の種類や特徴、主な用途について科学的に理解し、健康と安全、環境に配慮した衣生活の自立に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (イ) 主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (エ) 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善しようとしたりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
被服材料について、繊維の種類や特徴、主な用途について科学的に理解し、健康と安全、環境に配慮した衣生活の自立に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善しようとしたりして、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（5時間）

次【時間】	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
1次【1時間】	日常で行われている着装の選択等について確認し、日々着用している衣服がどのような繊維を用いて作られているのかグループごとに調べる。また、リサイクル等、日々の衣生活の在り方について振り返り、自分や家庭、地域の衣生活の充実に向上を図るために課題を見いだす。			○
2～3次【2時間】	天然繊維・化学繊維の種類や特徴、主な用途について情報を収集・整理し、目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装方法について考察する。また、考察した内容をICT端末を活用して共有し、生徒相互に理解を深める。	○	○	
4～5次【2時間】	前時で学習した内容を基に、三原組織、編物組織、被服材料の性能の改善について情報を収集・整理し、健康と安全、環境に配慮した着装について考察する。また、と学習前と学習後の理解の深度等について自己評価とまとめを行い理解を深める。	○	○	

★ICT端末の活用  
「Jamboard」を活用し、情報を書き出し整理する。

環境に配慮した衣服に着目することを促す。

★ICT端末の活用  
オンライン掲示板アプリ「Padlet」を用いて、内容を全体に共有し、他者評価を得る。

★探究的な学び  
地域で行っている衣服の資源回収に着目した、5R (Reduce (リデュース)・Reuse (リユース)・Recycle (リサイクル)・Refuse (リフューズ)・Repair (リペア)を意識した着装を考察する。

【社会とのつながり】  
次の単元内容「これからの衣生活」において、各企業がやっている環境に配慮した取組や、地域で行っている衣服の資源回収に着目する等、5Rを意識させながら授業を展開する。

エ 学習指導案（2・3時間目／5時間中）

1 本時の目標

(1) 代表的な繊維の種類と特徴、主な用途について理解することができる。

(2) 場面や目的に応じた健康で快適、機能的な着装について考えることができる。

2 本時の展開（全5時間予定の2・3時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価規準	指導上の留意点
導入	・前時の振り返り ・学習内容の確認	・学習内容及びねらいの確認		・スムーズに進められるように声がけを行う。
展開	・天然繊維（綿、麻、毛、絹）の種類や特徴、主な用途についてまとめる。	・原料や布、繊維の画像から、繊維の違いについて気付く。 ・繊維の種類や特徴、主な用途についてワークシートに情報を整理する。	【知識・技能】 ・それぞれの繊維の種類や特徴、主な用途について理解し、必要な情報を収集・整理することができる。	・要点の把握に向けて、ワークシートの記載を事前連絡する。
	・化学繊維（再生・半合成・合成）の種類や特徴、主な用途についてまとめる。	・布や使用されている製品を実際に触れ、繊維の違いについて気付く。 ・繊維の種類や特徴、主な用途についてワークシートに情報を整理する。	【知識・技能】 ・それぞれの繊維の種類や特徴、主な用途について理解し、必要な情報を収集・整理することができる。	・化学繊維と天然繊維との相違点に着目させながら展開する。
まとめ	・本時のまとめ ・繊維の種類や特徴を活かした着装を考える。 ・次時の学習内容の確認。	・それぞれの繊維の特徴や主な用途を踏まえて、場面や目的に応じた快適で機能的な着装について考える。	【思考・判断・表現】 ・場面や目的に応じた着装を考え、その理由について被服材料の特徴、性能を生かした表現をするなどして自らの生活に活用できるように考える。	・ICT端末活用「Padlet」を用いて、考えることが苦手な生徒も生徒同士で内容を確認しながら、まとめることができる。

★ICT端末活用  
クイズ作成アプリ「Kahoot!」を用いて、前時に学習した内容を振り返る。

「努力を要する状況（C）」と判断される生徒への手立て  
日常生活での着装、繊維の特徴や主な用途をまとめたワークシートの振り返りを促し、T・P・Oを明確化させた上で、根拠に基づいて論理的に表現できるように考えさせる。

★探究的な学び

- 3 オンライン掲示板アプリ「Padlet」を利用したワークシート  
 ☆ 場面や目的に応じた、健康で快適、機能的な着想について考えてみよう！

T i m e ……時・時間 P l a c e ……場所 O c c a s i o n ……機会・目的

T : 暑いとき	} 教員が提示
P : 体育館	
O : バレーボールの練習	
服装 :	} 生徒の回答欄
理由 :	

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

「思考・判断・表現」の評価例を次に示す。

A	B	C
場面や目的に応じた着装を考え、その理由について被服材料の特徴、性能等科学的根拠に基づいて論理的に表現できている。	場面や目的に応じた着装を考え、その理由について被服材料の特徴、性能等を、おおむね表現できている。	場面や目的に応じた着装を考慮することができず、被服材料の特徴、性能等を表現することができていない。

【評価Aとなる例】

T : 春	T : 冬
P : 公園	P : スケート場
O : ピクニック	O : 友達とスケートをする
服装 : 麻素材のブラウス、綿素材のズボン、綿素材とポリエステル素材が混ざったカーディガン	服装 : アクリル素材のセーター、ポリエステル素材のジャンパー、ズボン
理由 : <u>外を歩いて汗ばむときのことを考え、吸湿性・吸水性があり、触ると冷たく感じる麻素材</u> でできたブラウスを着用する。また、 <u>水に強く、洗濯しやすい綿素材</u> のパンツを着用する。 <u>汗をかいたあとの寒暖差を防ぐために、カーディガンを用意する。使用しないときは腰や肩にかけるため、しわになりにくいポリエステル素材を混ぜたもの</u> を用いる。	理由 : <u>アクリル素材は手素材の代用品としても使え、汗をかいても手入れが簡単で、弾力性があり保温性が大きい</u> ため寒い冬に適している。 <u>降る雪や転んだ時に濡れたりするのを防ぐために、吸湿性の小さいポリエステル素材</u> のものをアウターに用いる。

★評価のポイント  
 二重線：被服材料の特徴及び性能  
 波線：場面や目的

〈評価Aと判断した理由〉

日常生活を振り返り、場面や目的に応じた着装が考えられていることに加え、その理由について被服材料の特徴を科学的に理解し、根拠を示している。また、それぞれの被服材料の特徴や性能をかけ合わせたり、相違点・類似点などに気付き、それらを活用して論理的に表現していることから、Aに示す資質・能力が育成されていると考える。

【評価Bとなる例】

T : 春	T : 冬
P : 公園	P : スケート場
O : ピクニック	O : 友達とスケートをする
服装 : 速乾性のあるポリエステル素材のTシャツ・長ズボン、綿素材のタオル	服装 : アクリル素材のセーター、ポリエステル素材のジャンパー・ズボン
理由 : <u>夏の暑い時期</u> に着ているTシャツは、 <u>ポリエステル素材が多いため、吸湿性・吸水性の大きい綿素材</u> のタオルを使って汗を拭き取る。	理由 : <u>保温性の大きいアクリル素材</u> のセーターを着る。 <u>寒い季節なのでマフラー</u> を首に巻く。 <u>風を通さないように、ポリエステル素材</u> のジャンパーを上羽織る。

★評価のポイント  
 二重線：被服材料の特徴及び性能  
 波線：場面や目的

〈評価Bと判断した理由〉

日常生活を振り返り場面や目的に応じた着装が考えられていること、その理由について被服材料の特徴、性能を活用して表現していることから、Bに示す資質・能力が育成されていると考える。

「評価B」と判断される生徒への手立て

場面や目的に応じた着装の理由が、被服材料の特徴や性能等の科学的根拠に基づいており、それらをかけ合わせ、論理的に着装方法が表現できているかを確認するよう促す。

【評価Cとなる例】

T：春	T：冬
P：公園	P：スケート場
O：ピクニック	O：友達とスケートをする
服装：スウェット上下	服装：セーター、ズボン
理由：楽で着心地が良いから。	理由：寒いときにいつも着ているから。

〈評価Cと判断した理由〉

着装の内容や理由について、自身の感想のみを記述しており、被服材料の特徴や性能等の科学的根拠が示されておらず、用途の根拠もないことから、評価規準に示す資質・能力の育成について不十分だと考えられる。

「努力を要する状況(C)」と判断される生徒への手立て

場面や目的に応じた着装になっているか、またその理由が被服材料の特徴、性能等の科学的根拠に基づいており、着装方法が示されているかについて着目することを確認する。また、自分の考えた着装内容をよりよいものとするために他者の考えを参考にすることができるよう促す。

ICT端末の活用～オンライン掲示板アプリ「Padlet」による情報共有

ICT端末を活用することで、生徒が即座に他者の考えを共有することができるとともに、生徒の他者に伝える力を育むことにもつながる。

また、学習を通して身に付けるべき資質・能力がどのくらい身に付いているか評価規準に照らして見取ることができるため、「指導に生かす評価」として活用することができる。

場面や目的に応じた、健康で快適・機能的な着装について考えよう！

T・P・Oに合わせて、服装とその服装を選んだ理由を書き込んでみましょう。

<p>1-2 8番 T：冬、雪が降っている P：外 O：雪かき (服装) ダウンジャケット、ヒートテック (理由) 寒いから、断熱保温効果があるダウンジャケットを着用する。 吸湿発熱効果で体の温度を保つ。</p>	<p>1-2 19番 T：夏 P：布団の上 O：睡眠 (服装) 綿素材のパジャマ (理由) 寝ているときは汗をかくから。 吸水性があって、肌触りがいいから。</p>	<p>1-2 23番 T：冬、寒いとき P：スケート場 O：スケートをする (服装) アクリル素材のセーター、手袋、ポリエステル素材のズボン (理由) 寒いので、保温性のあるアクリル素材のセーターと手袋を着用する。</p>
<p>1-2 25番 T：雨が降っている P：外 O：キャンプ (服装) 透湿防水素材のジャンパー 吸汗速乾性素材のTシャツとズボン (理由) 雨でジメジメしている中で、吸湿しながら給水できるから。</p>	<p>1-2 27番 T：夏、めっちゃ暑い日 P：外 O：デート (服装) 朝素材のTシャツ、綿素材のズボン (理由) 麻は触ると冷たく感じる特徴があるから、暑さをしのぐため。 汗をかいても大丈夫なように綿素材のズボンにする。</p>	<p>1-2 30番 T：夏 P：陸上競技場 O：陸上部の練習 (服装) 吸汗速乾性素材のTシャツと綿のタオル (理由) 汗をかいてもベタつきが少ない。汗を拭くのに吸水性の大きい綿のタオルを使う。</p>

「Padlet」で情報共有したときのイメージ図

# Topic

## 家庭科における「関係機関と連携した消費者教育の探究的な学びの実践事例」

### ◆ 消費者教育・金融教育での外部人材の活用について

教科「家庭基礎」「C持続可能な消費生活・環境(1)生活における経済の計画」における、関係機関と連携した消費者教育の探究的な学びの授業実践例を示す。

事前学習において家計管理の重要性や、収入と支出のバランスやリスク管理の必要性等を理解させる。その上で、資産形成の視点を持ち、将来に備えた経済計画を考察させる実践例となっている。

また、本事例は、生命保険会社の方を講師として招き、「人生経営の視点で理想を叶える」を題材に、1人1台端末を利用し、Google FormsやJamboardなどのICT端末を活用しながら、グループワークと個人思考を組み合わせた探究的な学びに繋がる授業となっている。



単元名 (題材名)		C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画		学習 目 標	家計管理の重要性を理解し、収入と支出のバランスやリスク管理の必要性を踏まえたうえで、資産形成の視点を持ち、将来に備えた経済計画が考察できる。
本時の展開		4時間目 単元 6時間			
指導過程 学習項目	時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】
導入	一斉学習 5分	・学習内容の確認 ・ワークの説明	・本時の学習内容やねらいを理解する。	※事前にグループワークの形にしておく。(6班/6～7名で構成)  ・本時の目標と学習内容を理解することで見通しを持たせる。	
		展開	協働学習 25分	・のび太のライフデザインをグループで検討、まとめ、発表させる。	・のび太の理想のライフデザインを実現するため、各年代における必要な事柄やライフイベント、それに係る金額について各班で予想する。  ・端末を使用し、Google Jamboardやスライドで予想した内容をまとめる。  ・まとめた内容を発表する。
まとめ	一斉学習 10分			・ワーク後の解説  ・家計資産のマネジメントについて	・理想とするライフデザインの実現には、給与の他、保険や金融リテラシーの活用が必要であることを理解する。  ・ライフデザインを考える上での資産形成の重要性や、金融商品の種類と留意点について理解する。
		・振り返り ・次時の学習内容の把握	・Google formsで、振り返りを行う  ・ワークシートへの記入と提出	・授業時間内にformsの送信やワークシートを提出できない生徒は、必ず本日中に提出する旨を伝える。	思考・判断・表現  ＜評価方法＞ ワークシート  ・理想とするライフデザイン実現のための経済計画を考えることができる。

※「北海道教育委員会「S-TEAM教育推進事業」令和4年度(2022年度)授業改善セミナー(家庭)学習指導案